



一般社団法人

富山県作業療法士会 ニュース

平成26年度 No.4

第 115 号 平成27年 2 月 4 日

発行 富山県作業療法士会

会長 田 村 良 子

印刷 (株) チ ュ ー エ ッ

富山県作業療法士会ホームページ <http://toyama-ot.sakura.ne.jp>

富山県作業療法士会会員数：533人

第15回富山県作業療法学会を終えて

運営委員長 魚津緑ヶ丘病院 中山 真 一

平成26年12月7日(日)に北アルプス文化センターにて第15回富山県作業療法学会を開催しました。前日・当日はあいにくの雪。特別講演のために広島からお越しいただいた吉川先生も行きの電車が途中で止まってしまうハプニングがありましたが、そんな悪天候にも関わらず178名の方に参加していただきました。

私にとっては初めての学会運営委員長。一昨年の年末に県士会事務局長の広野さんからお話をいただいたときは、プルプルと体が震えたのを覚えています。先輩方にお話を伺うと口を揃えて「県学会くらい大丈夫！」と言われましたが、私としては相当なプレッシャーを感じながら過ごした1年でした。

今学会のテーマは「主体的な生活を支援するには」でした。始めはピンと来なかったのですが、学会準備を進めていくに従い日本作業療法士協会が推進している生活行為向上マネジメントなど昨今の作業療法士が課題とすべきものにピタリと当てはまっていることに気付き、テーマを決められた山崎学会長の慧眼の鋭さに驚かされました。

特別講演は吉川ひろみ先生。先生のご家族の事例を交え“意味のある作業”とはどんなものなのかを分かりやすくご講演いただきました。個人的には「一人でトイレに行く＝必ずしも主体的では

ない」という言葉がすごく印象に残っており、援助者のエゴで動いていないかなど、とても考えさせられるものがありました。

技術講座では「生活行為向上マネジメント」「ADOC」「スクエアステップ」の3つを開催しました。各講座とも活気にあふれ大盛況でした。技術講座は前者2つが学会テーマに即したものになっていましたが、分野によっては活用しにくい所もありました。これらに体験型の「スクエアステップ」を加えることでより多くの方に親しみを持っていただけるものになり、バランスのとれたものになることが出来たと思っています。

演題発表は17題。昨年より少々減ってしまいましたが、各分野から発表していただくことが出来ました。各々の研究成果を披露しあうことで様々な刺激を受けることが出来たと思います。今回は演題を集める立場でしたので、皆さんがどのような思いで発表に至っているのかを感じることが出来ました。改めて演題発表の大切さを学ぶことが出来ました。

参加していただいた皆様にお詫びしなければならないのが、メインホールがとても寒かったことです。会場となった北アルプス文化センターは約800名収容できるのですが、当然それほどの参加者を見込めるはずもなく、見栄えを良くするために

2F席をカーテンで閉めきっていました。しかしこれが結果的に仇に。何と暖房は2F席の上から入る仕組みでして、カーテンを閉め切ることで暖気を全て遮断してしまっていたのです。午後からはこのことに気づき、カーテンを開けることで対応しましたが、皆様にはご迷惑をおかけしてしまい申し訳ありませんでした。

一緒に頑張っていたいただいた運営委員の皆様にもご迷惑をお掛けすることが多かったと思います。何を聞かれても即答することが出来ない情けない委員長ではありましたが、委員の皆様のご尽力により無事に学会を終えることが出来ました。前日・当日と私はほとんど出番がなく会場内を巡回してただけで良かったのも、委員の方々が自ら

考え取り組んでいただいたからです。また顧問を務めていただいた広野さん、小倉さんにも大変お世話になりました。後ろに頼りになる先輩がおられるという安心感があったからこそ運営委員長を務めることが出来ました。委員の皆様、どうもありがとうございました。

正直言って今まで私は県士会業務から逃げていました。しかし今回、県学会を運営させていただきその重みを感じました。私のような中堅作業療法士を育成していく、という先輩方の思惑にうまく乗せられた形ではありますが、微力ながら今後も県士会で出来る事を探していきたいと思っています。

第15回 富山県作業療法学会特別講演の報告

かみいち総合病院 山崎 京子

昨年(2019年)の12月7日(日)に、上市町にある北アルプス文化センターで第15回富山県作業療法学会が開催されました。関係された方々には心より、感謝申し上げます。今、学会を終え、特別講演に焦点をあて報告させていただきます。

学会の準備に入った時、特別講演は、日本作業療法士協会の「人は作業をすることで元気になれる」というスローガンにそって考えました。そこで、COPM・AMPSなどの著作や翻訳が多くあり、講師としての知名度が高い県立広島大学保健福祉学部作業療法学科教授の吉川ひろみ先生に決めました。

学会のテーマは、「主体的な生活を支援するには～その人を知りより良い人生を送っていただくために～」としました。特別講演のテーマは、吉川先生自ら学会テーマと同じく、「主体的な生活を支援するには」にされました。

テーマについて、当初、私は“作業療法士が患者さんをどのように支援するか”の方に重点があるつもりでした。それが、吉川先生の講演では、

“主体的な生活とはどのようなものであるか”の方に重点を置いておられ、違いを認識させられました。患者さんにとって、主体的な生活をする事は、生きがいを持つためにとても必要です。

“主体的な生活をしている時はいつ?”それは、自分や社会にとって意味のある作業をしている時。具体的な事柄は個人個人で違いはありますが、吉川先生は、カナダ作業遂行モデルをもとに説明されました。作業遂行には、人と環境と作業の組み合わせが関係しています。作業療法士は、患者さんに面接し、主体的な作業をみつけ、作業遂行できるように支援を行うことが重要です。それとともに、患者さんが、人や社会から必要とされていることを実感できるように対応することが、とても大事なことだと思いました。

今学会の約1週間前より、強い寒波がくるニュースを聞いて、遠い広島県から来られる吉川先生のことを、ずいぶん心配いたしました。予定どおり特別講演を行うことができた時は、本当に安堵したものです。ところで、この強い寒波は、地球

温暖化のために起きている現象であると、ニュースで聞きました。これについて、専門的な説明を聞いても、私にはとても難しく理解はできませんでした。例えば全く違いますが、作業療法士も保健福祉分野での専門家です。それほど難しい専門家でなくても、地域社会の人々から理解され、なお且つ、お役に立てる存在に今後より一層なっほしいと思っています。



東海北陸作業療法学会に参加して

富山労災病院 市森 知恵

11月15・16日の2日間にわたり三重県の四日市市文化会館にて第14回東海北陸作業療法学会が開催されました。今学会のテーマは「集めよう作業療法士の豊かな力～人・技・心～」であり、高次脳機能障害や認知症などの各専門分野の先生方の事例報告を交えたセミナーの他、口述発表65題、ポスター発表46題、企画展示や市民公開講座もあり各セッションで活発な議論が行われました。

今回の演題の中には、生活行為向上にスポットを当て「意味のある作業」を提供することを重要視し機能回復や心のケアに努めているものが多くみられました。対象者自身が意味ある作業を選択し、作業療法士とともに協働することで充実感や達成感を感じ、活動意欲・身心機能の向上へと結びつけていきます。印象的だったのは、意思疎通は可能であるが努力性嗄声であり、痙性の強い脳性まひによる四肢麻痺の方の演題でした。適切な福祉機器の導入と獲得訓練の結果、長年の夢であった作家活動を可能としQOLを向上させたという報告でした。作業療法士が対象者の身体能力を見極め、福祉機器を選択し活動性を上げた事はもちろん、他職員の意識も改革し一丸となってサポートする体制を構築していったことも作業療法の効果であると感じました。私自身も対象者にとって意味のある作業の提供に心がけアプローチしてい

く必要性を感じました。セミナーでは名古屋大学の酒井浩先生による「高次脳機能障害作業療法」に興味深かったです。今回は特に角回と前頭前野に注目した脳科学の講義でしたが大変わかりやすく、高次脳機能障害の奥深さを教わりました。今回の学会では富山県士会からの依頼により座長という私にとっては大役を任せられ、発表者と共に緊張感を味わいながら無事役目を果たしてきました。直前まで熱意を傾け取り組んできた演題を発表する演者たちが、緊張した面持ちから発表後には晴れ晴れとした表情となる様を見て、受け身の学会参加ではなく積極的に参加することの良さを感じました。また、日頃から発表につなげるような心構えで臨床を実践することも大事なことであり、学会参加はその事に気付かせてくれる良い機会となりました。加えて、発表を分かりやすく人に伝えるため、スライドやポスターをどう工夫すればよいのか考えるきっかけにもなると感じました。

最後に、今会場は駅から離れており係りの方がポイントで看板を持ち誘導してくださるなど他県からの参加でも安心できるような配慮の行き届いた学会でした。レセプションでは三重県作業療法士会の名物であるリハレンジャーにも会え大いに盛り上がり、三重県の良さをたっぷりと感じ取れた楽しい学会でした。

東海北陸学会災害対策公開会議に参加して

高林 一彦

昨年11月15日・16日に三重県にて東海北陸学会が行われ、災害対策公開会議が行われました。この会議が開催される経緯といたしましては以下のような流れがあり、会員の皆様にはご理解いただきたいと思えます。

東日本大震災を期に東日本大震災リハ関連10団体が組織され、その後改名して大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）となります。東日本大震災の経験からリハ支援活動は発災早期から、少なくとも1週間前後には開始されるべきで、円滑に出動して作業を提供するためには、平時より各職種の連携と地方行政との良好な関係を築くことが望まれます。そこで、一昨年末、全都道府県を対象に医師・PT・OT・ST・Nrs・ケアマネの代表者を招集して数回に分けて災害時コーディネーター研修会が実施され、各代表者が自県に持ち帰り、ネットワークを構築する課題を受けました。

以上が、災害時リハの動向であり、今学会の公開会議はその活動進行状況の報告会でもありました。

進行状況は、各県まちまちであり、非常に差がある状態でしたが、大きな課題としては①行政との連携のあり方②研修会など啓蒙活動の強化③マニュアルの作成などが上げられました。また、災害時の活動内容としては①情報収集と統合機関の設置②生活支援（バリアフリー化、福祉用具の提供、生活指導etc）③生活不活発病・廃用症候群の予防の対応etcがあげられました。

当県での実情は、まだ他職種との話し合いもあまり進んでいないのが現状であり、その前に士会内での委員会の設置と勉強会など啓蒙を図っていきたくて考えています。今後、呼びかけの際は、是非ご協力・ご参集をお願いしたいと思っております。

会員異動

| 種類 | 氏名 | 旧所属 | 新（現）所属 |
|----|-------|---------|---------|
| 異動 | 大屋友香子 | 横田病院 | 自宅 |
| 異動 | 関原明奈 | 小矢部大家病院 | 駅南あずさ病院 |

住所変更

| 施設名 | 郵便番号 | 住所 | TEL | FAX |
|----------|----------|----------|--------------|--------------|
| 新川老人保健施設 | 937-0851 | 魚津市佳吉236 | 0765-24-3080 | 0765-24-3019 |

「成人中枢神経疾患患者への ボバースアプローチ上級講習会」を受講して

山田温泉病院 吉野 綾太

2014年12月15日～19日に大阪の森之宮病院で開催された、シニアインストラクターMary Lynch-Ellerington女史による「成人中枢神経疾患患者へのボバースアプローチ上級講習会」へ参加する機会を頂きました。受講生は中国からきた方も含めPT18名、OT6名、計24名でした。もう一人のコースリーダーとして、シニアインストラクターの紀伊克昌先生（PT）、アシスタントとしてアドバンスインストラクターの大槻利夫先生（PT）、ベーシックインストラクターの日浦伸裕先生（PT）、鈴木三央先生（OT）が参加されました。

この講習会のテーマは“Locomotion”で、歩行・リーチを含めた移動という機能を神経生理、身体構造、環境適応等の観点から捉え、中枢神経疾患を伴った成人の方の臨床像の分析と問題点、アプローチについて、実技、治療実習を通して学ぶことを目的としています。

今回、私がこの講習会に参加しようと思った目的は、OTとしてリーチは当然として、歩行に関してもより具体的な臨床推論を展開できるようになり、そして、一番の目的は世界でトップクラスのセラピストの治療を見てみたいという知的好奇心からでした。実際にその技術は圧倒的なものでした。

講習会のカリキュラムの中に、実際に患者様を治療するデモンストレーションがありましたが、問題点を把握していく臨床推論の過程や、その問題点に対する全く無駄のない介入の的確さ、次々に展開されていく治療流れ、そしてなによりも素晴らしい治療技術。みるみる変化していく目の前の患者様の反応に驚愕と感動すら覚えました。来室されたときには、筋が弛緩し、明らかな麻痺側及び体幹の弱化が見られ、とても体重を支えてい

られない麻痺側下肢だったのが、一度のセッションで目に見えるくらいに筋が活性化し、その変化に患者様自身が驚き、発症以来初めて麻痺側で支えている感覚を実感し、涙しておられる場面もあるほどでした。

Mary女史は、的確に筋紡錘やゴルジ腱受容器を刺激し、生理学的加重を加えていくことで中枢神経システムを活性化していくことが重要であり、そのためにシステム理論のより深い理解と筋骨格系の的確な触診技術が必須であると述べられました。そしてこのことを、実技や受講生が実際に患者様を治療する治療実習の中で直接指導して頂き、大変貴重な経験が出来ました。

この講習会は本当に内容が濃く、有意義なものでした。私がどこまで伝えられるかわかりませんが、山田温泉病院で月一回行っている勉強会（所属不問、PT,OT,STどなたでも参加可能で、参加費なし）で伝達報告したいと思いますので、興味のある方はご連絡ください。

あと、平成27年度6月に山梨でOTの為のボバースインフォメーションコースに私もアシスタントとして参加させていただいたので、興味のある方は一緒に行きましょう。



前列左から鈴木先生、紀伊先生、Mary女史、日浦先生、後列左大槻先生

平成26年度 第8回理事会

場 所：谷野呉山病院

日 時：平成26年11月10日(月) 19:00～

参加者：田村、作田、浅生、田邊、橋爪、丸本、
吉波、島津、齋藤、松岡、高林、松本、
森、広野

以下の事について検討した。

〈検討事項〉

1. 47都道府県委員会規定一案については問題箇所なし。
2. OT協会と県士会の関係に関する協定書一案については問題箇所なし。
3. 富山県精神看護協会より「高齢者へのレク」講師依頼－1月中に開催予定。講師を田邊理事に依頼。
4. 今後の東海北陸OT学会のあり方（枠組み・運営手法）－学会開催運営費用を考えると、会費を値上げする必要があるが、運営費用の補助も無い中で開催士会の費用負担が多額となる学会を開催する必要があるのか検討が必要。
5. H26年度臨時総会－3月中旬までに開催予定。総会と一緒に「生活行為向上マネジメント」「認知症初期集中支援チーム」に関する研修会を開催する予定。
6. H27年度事業計画を11月末までに提出してもらい、全体会で各部会と検討する。理事会からは、「生活行為向上マネジメント」「認知症初期集中支援チーム」の研修会を学術部に協力してもらえるよう依頼する。
3. 富山県厚生部門功労表彰（田村氏を推薦）・健康と長寿の祭典大会表彰（早川氏を推薦）－受賞なし。
4. 福祉用具相談支援システム委員 澤木氏より県学会開催時に福祉用具についてのアンケート実施計画中－相談件数は現在2件。
5. 第49回OT学会趣意書届く。
6. 11月29・30日「専門職とソーシャルワーク実践研修会」－浅生氏、田邊氏、磯部氏参加予定。
7. 日本リハビリテーション病院・施設協会の研修会参加者に対する県士会の推薦状の依頼－申し出なし。
8. 富山県OT学会進捗状況－プログラム発送済。生活行為向上マネジメントの講習会も準備中。
9. 訪問リハ研修会H27年1月25日(日) サンシップにて一日開催予定。
10. 老人部会研修会 11月8日－50名参加。
11. 介護予防研究会 11月8日－理学療法士島倉氏を講師に招き、20名程度参加。
12. 地域リハビリテーション従事者研修会（災害リハ）11月8日－県との連携の取り組み方について話し合う。
13. ほたるいかマラソン10月12日－ランナー3名・ボランティア17名参加。
14. 身障部会研修会10月25日－45名参加。
15. 基礎医学部会研修会10月18日－45名参加。
16. 24時間テレビの協賛金協力－KNBから礼状届く。
17. 財務部－県士会会員管理システム製作費用のうち内金25万支払予定。
18. H27年度全国研修会－9月26・27日富山国際会議場で開催予定。富山県士会が企画する2講座についての候補を協会に打診中。12月6・7日H26年度全国研修会（奈良）視察予定。

〈報告事項〉

1. 富山県観光課よりコンベンション開催支援セミナー 11月14日(金) 14:00～開催案内－不参加
2. 富山県・富山市の学会等開催事業補助金アンケート提出

Toyama

Prosthetics & Orthotics Service

<http://www.tpo-morita.com>



【営業品目】

義手・義足・補装具等 製作修理

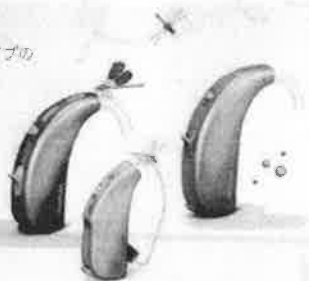
オーダーメイド靴 製作

車椅子・スーパ・補聴器

福祉用具貸与販売

高度・重度難聴の方をサポートする。
クレストシリーズのパワー&防水タイプの
補聴器です。

Phonak (quest)



(株)富山県義肢製作所 富山県補聴器センター

〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16

TEL (076) 425-4279

FAX (076) 425-4587

E-mail t-gishi@cronos.ocn.ne.jp

介護保険対応! ベッド・車椅子・レンタル!

車椅子
➔ 480円より
ベッド
➔ 700円より

リースナール



株式会社 **ウイル**

TEL (0766) **56-7099**
FAX 56-3395



手芸・毛糸の店

- 手芸糸 ハマナカ
 - 刺し子 オリムパス、ナスカ
 - ビーズ手芸 トーホー、ミュキ
 - マクラメ糸 ダルマ、川端
 - ちりめん手芸 東芸
 - その他 S.M、M.B他
- 各手芸材料取り扱っています。



ポタン・手芸・毛糸

スギマサ

〒930-0083 富山市総曲輪3丁目7-9

TEL (076) 421-3444

FAX (076) 421-4334

■ OTを取り巻く状況

田村 良子

12月15日に全体会を開催し27年度の県士会の事業計画を検討しました。新規事業では9月26、27日にOT協会主催の全国研修会を富山国際会議場で開催します。新幹線開通に伴い富山へのアクセスが良くなることにより27年度に富山でと立候補していました。「作業は人を健康にする～その人の暮らしを支える技術～」をテーマに、現在の医療・保健・福祉の動向や作業療法の実践について学ぶ事ができます。今作業療法士が身につけていなければいけない知識・技術がコンパクトに詰まっています。それにより、県学会は開催しませんので多くの方の参加をお願いします。

また、生活行為向上マネジメントを作業療法の手法として全員が身につけることを目指し、学術部の各部に研修会の運営をしてもらい、皆さんが参加しやすいように新川（5月）、富山（6月、10月）、高岡（8月）地区で開催します。すでに厚労省が「作業療法士は生活行為向上をやってくれるのですね」と言っている状況ですので「知りません。できません。」ではOTの看板は外さなければなりません。そして高齢者の増加に伴い認知症への対策は必須となり、認知症初期集中支援チームの体制が作られ、そのチームにOTが明記されています。ここでもOTの果たす役割が期待されています。これにも応えていくよう、生活行為向上マネジメントと同様に研修会を県西部（7月）、東部（11月）の2か所で開催します。このように27年度は各自の作業療法を国民の要請にきちんと応え得るものにする年ではないかと思えます。応えられなければOTという職は消えていく事になります。リハビリテーションが日本に導入されOTという職業ができて50年を迎える年にあたり、OTの真髄が発揮される時代になるのか、消えるのかの分れ道になる年と言えるでしょう。

新年を迎え、心を新たにして「人々を元気に健康にする」作業療法を届けられるように頑張っていく事を誓いましょう。

賛助会員名簿

(順不同)

| 会員名(代表者) | 住所 | 備考 |
|--|---|-------------------|
| 温泉リハビリテーション いま泉病院 (理事長 大西仙泰) | 〒939-8075 富山市今泉220 TEL076-425-1166 | |
| (株)ウイル (代表取締役 黒田 勉) | 〒939-0311 射水市黒河3075 TEL0766-56-7099 | |
| 酒井医療(株) 金沢オフィス (リーダー 小松 勉) | 〒921-8036 金沢市弥生2-6-16 1F TEL076-241-5721 | |
| 平野 淑子 | 〒930-0008 富山市神通本町2-3-7 TEL076-432-6617 | (有) クラフト 工房 |
| 富山医療福祉専門学校 (学校長 辻 政彦) | 〒936-0023 滑川市柳原149-9 TEL076-476-0001 | |
| (有)スギマサ洋装店 (代表取締役 杉政正規) | 〒930-0083 富山市総曲輪3丁目7-9 TEL076-421-3444 | |
| 学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (理事長 加藤 晃) | 924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL076-276-4400(代) | |

編集後記

新年、明けましておめでとうございます。昨年度も皆さまのご協力のもと広報活動を行うことができました。ありがとうございます。さて、年もあけた1月は『睦月』とも呼ばれます。語源はいろいろありますが、ひとつに陰暦1月の異称として「むつびづき」「むつましづき」ともいい、新年を迎えて親疎ともども往来して仲睦(むつ)まじくするという意味もあるそうです。お互いを切磋琢磨しなかつまじく新しい1年を過ごしていきたいと思えます。本年もどうぞよろしく願いいたします。 S. M